



Title	研究会報
Citation	独語独文学研究年報, 28, 48-51
Issue Date	2001-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/26134
Type	departmental bulletin paper
File Information	28_P48-51.pdf



研 究 会 報

講義題目（2001年度）

[学部]

前期	独文学演習	文体論（1）	石原 次郎
後期	独文学演習	文体論（2）	石原 次郎
前期	独文学基礎演習	テキスト読解と基礎文学論（1）	山田 貞三
後期	独文学基礎演習	テキスト読解と基礎文学論（2）	山田 貞三
前期	独文学	言語批判論（1）	山田 貞三
後期	独文学	言語批判論（2）	山田 貞三
前期	独語講読	ドイツ語テキストの読解	石原 次郎
後期	独語講読	中級ドイツ語読解	神 久聡
前期	独文学史概説Ⅰ	文学史記述の問題	山田 貞三
後期	独文学史概説Ⅱ	ドイツ語圏を中心とした文学の歴史	石原 次郎
前期	独文学	Von der Wiege zur Bahre—ein Gang durchs Leben	Michael Schart
後期	独文学	Von allen Sinnen—Wahrnehmung und Kommunikation	Michael Schart
前期	独語学概論Ⅰ	ドイツ語の運用	植木 迪子
後期	独語学概論Ⅱ	ドイツ語の歴史と地域的特徴	清水 誠
前期	独文学	カフカ『流刑地にて』を読む	西村 龍一
後期	独文学	カフカ『或る犬の探求』を読む	西村 龍一
前期	独語学演習	Schreiben für Fortgeschrittene	Christine Kühn
後期	独語学演習	“In Bildern lesen...” Lesen, beschreiben, interpretieren	Christine Kühn
前期	独語学演習	オランダ語の構造（1）	清水 誠
後期	独語学演習	オランダ語の構造（2）	清水 誠
前期	独語学	Lesegrammatik für Deutsch als Fremdesprache 1	植木 迪子
後期	独語学	Lesegrammatik für Deutsch als Fremdesprache 2	植木 迪子
前期	独語学	Das romantische Deutschland 1 : Die Märchenstraße	Christine Kühn
後期	独語学	Das romantische Deutschland 2 : Die Burgenstraße	Christine Kühn

[大学院]

前期	ドイツ文学特別演習	ドイツの国語教育（1）	石原 次郎
後期	ドイツ文学特別演習	ドイツの国語教育（2）	石原 次郎
前期	ドイツ語学特別演習	社会言語学演習（3）	植木 迪子
後期	ドイツ語学特別演習	社会言語学演習（4）	植木 迪子
前期	ドイツ語学特別演習	ドイツ語史の諸相（1）	清水 誠
後期	ドイツ語学特別演習	ドイツ語史の諸相（2）	清水 誠
前期	ドイツ文学特別演習	言語批判の系譜（1）	山田 貞三
後期	ドイツ文学特別演習	言語批判の系譜（2）	山田 貞三
前期	ドイツ語学特殊講義	Germanistisches Kolloquium.	Christine Kühn
		Sprache-Denken-Schrift I: Das Alphabet	
後期	ドイツ文学特殊講義	Germanistisches Kolloquium. Sprache-Denken-Schrift II:	Christine Kühn
		Die Rechtschreibreform und ihr Echo in Wissenschaft,	
		Literatur und Öffentlichkeit	

研究会行事記録

- ◎ 2001年2月9日に北海道大学文学部204号室において2000年度卒業論文発表会が開かれた。

〈留学関係〉

- ◎ 2001年9月に杉浦康則氏がミュンヘン大学へ留学のため出発した。
- ◎ 2001年8月に香川千穂氏がミュンヘンより帰国した。

- ☆ 2001年5月26日に年報の総会が行なわれ、幹事選出、新会員の紹介等が行われた。
- ☆ また、同総会にてレフェリー制導入の緊急動議が提出された。
- ☆ 2001年12月15日に年報の総会が行なわれ、第28号からのレフェリー制導入が承認された。

2000年度 独語独文関係の論文題目

卒業論文

- 熊 坂 亮 : 「質問」ということ―„nicht-wörtliche Frage“の考察―
- 杉 浦 康 則 : レンツの『Die Soldaten』構造ととらえ方

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため、下記の事業を行なう。
 - 1) 機関誌「独語独文学研究年報」を毎年1回発行する。
 - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会会員は北海道大学大学院文学研究科・独語独文学関係の教員・院生ならびにその趣旨に賛同するものによって構成される。

本会会員は上の活動の遂行のため所定の会費を払う。
本会は1名の会長と若干名の幹事をおく。幹事は会計および編集委員を兼任する。
本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。
本会の事務局は北海道大学大学院文学研究科におく。
本会に賛助会員をおく。

☆論文執筆要項

1. 論文審査

- 1) 本誌は論文の掲載に関して審査を行う。
- 2) 論文の採否は審査委員が決定する。その際、原稿への加筆、修正などを求めることがある。

採否の結果は、編集委員会が投稿者に通知する。
- 3) 審査委員は、編集委員会から委嘱を受けた本会所属の教員数名がその任にあたる。

2. 執筆原稿規定

執筆申し込み： 執筆希望者は、各年度の5月に行われる総会の前日までに、その旨を編集委員会に申請すること。

ページ数： 14ページ程度。

1ページの文字数・行数は任意。ただし35～37行程度が望ましい。

原稿の大きさ： A4

論文題目： 原稿1ページ目の最上段、中央に、太字・ゴシックで多少大きめに記載する。
二行にわたっても構わない。

また、別紙にドイツ語または他の欧文による題目を記載する。

注釈・文献： 注釈は脚注または奥付けとする。注釈番号はアラビア数字で右括弧付き。

執筆者氏名： 原稿1ページ目の3行目（題目との間に1行開けること）、太字またはゴシックで右端に記載する。

身分の明記： 原稿末に丸括弧つきで、右寄りで所属機関・職名を明記する。

締め切り： 10月31日

会 員 名 簿

※青 柳 謙 二	○阿 部 和 夫	石 川 克 知	石 原 次 郎
伊 藤 祐紀子	井 上 暁 子	岩 井 洋	岩 田 聡
◎植 木 迪 子	臼 渕 幸 子	梅 津 真	江 口 豊
岡 崎 朝 美	岡 田 麻 子	荻 原 達 夫	小 澤 幸 夫
香 川 千 穂	○川 崎 良 江	※川 島 淳 夫	岸 川 良 蔵
○熊 坂 亮	佐 藤 修 子	佐 藤 俊 一	塩 谷 幸 子
清 水 誠	神 久 聡	○真 貝 恒 平	杉 浦 康 則
鈴 木 将 史	鈴 木 玲 子	高 橋 修	田 中 剛
対 馬 晃	寺 田 龍 男	○戸 松 豊	中 川 勝 昭
中 祢 勝 美	名 執 純 子	名 執 基 樹	西 川 智 之
シャイフレ馨子	藤 本 純 子	前 原 真 吾	最 上 英 明
森 田 一 平	三 浦 國 泰	山 口 修 司	山 田 恵 子
山 田 貞 三	山 田 善 久		

◎は会長

○は幹事

※は名誉賛助会員

編 集 後 記

本年度は、レフェリー制を導入した最初の年ということもあり、編集作業が遅れ、会員の皆様には多大なご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。また、多忙な中、快く、レフェリーを引き受けてくださった方々には、この場を借りて感謝申し上げます。次号からは、今回の反省点を生かし、編集作業に取り組んでいきたいと思ひます。

編集委員一同